

『歌川広重展 - 中山道広重美術館五年間の歩み - 』



歌川広重
「五十三次名所図会 四十五
石薬師 義経さくら範頼の祠」

大判錦絵揃物の内
安政2年(1855)ころ
当館蔵 平成15年度購入

桜のころに始まったこの展覧会も、終盤を迎えました。今回の展覧会では、当館が収集してきた歌川広重作品を展覧し、館こだわりの広重コレクションを通して、その魅力を再発見してもらおうと思っています。

6月20日から始まった第3期のとっておきの作品をご紹介します。「五十三次名所図会 四十五 石薬師 義経さくら範頼の祠」(図参照)です。「五十三次名所図会」は、東海道の各宿場を描いた55枚から成るシリーズ。広重は、出世作でもあり代表作でもある「東海道五拾三次之内」以来、たくさんの東海道シリーズ(15種類以上といわれる)を描いてきましたが、これもその内の一つ。広重の東海道シリーズは、たいていが同じ「東海道五拾三次」というタイトルであるため、それらを区別するため、後世あだ名が付けられました。例えば出世作「東海道五拾三次之内」は、版元(出版社)の名前を取って『保永堂版』と呼ばれます。他にもタイトルの字体から『行書判』、『隷書判』などがあります。この「五十三次名所図会」は、唯一縦構図であるため、『縦絵東海道』と呼ばれています。

本図は、後期印象派を代表する画家、ゴッホのコレクションにもある作品。ゴッホを支援した画材商を描いた「タンギ 親爺の肖像」(ロダン美術館蔵)に描き込まれていることでも有名で、ジャポニズムを象徴する作品の一つです。

会期: 4月13日(木) ~ 7月23日(日)

第3期: 6月20日(火) ~ 7月23日(日)

毎週月曜日(祝日を除く) 祝日の翌日(土日祝日を除く) 休館

会期終了後、7月24日(月) ~ 26日(水)まで展示替え休館します。

編集後記

中山道かたりへの会の皆さんと中津川駅から恵那駅まで中山道を歩く機会があり、昨年の武並駅からのコースと合わせておおよその市内の中山道は、歩くことができました。街道には、たくさんのお史跡があり、まつわる話もいろいろ。名前の由来や、言い伝えなど、人の歩く所には、物語が生まれます。よこれ茶屋、びやいと茶屋など茶屋が多く、昔もオープンカフェ(屋外の喫茶店)で休憩するのがはやりだったのかな、と思いました。普段、車の生活では見過ごしてしまうことも、歩くことで新しい発見があります。これからも歩くことや自転車などを利用して、車とは違うゆったりとしたスピードを大切にしたいと思います。

次号は7月15日号

発行日は7月14日(金)です

広報えな No.39

2006年(平成18年)7月1日発行

発行 恵那市役所

編集 まちづくり推進課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家1丁目1番地1

☎26-2111 / ☎25-6150

<http://www.city.ena.gifu.jp/>

✉info@city.ena.gifu.jp

『広報えな』7月1日号、1部当たりの印刷経費は約17.6円(税込み)です。



『広報えな』は古紙100%の再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。